

## 展覧会「いきもの賞玩」 美術・工芸の“生き物”公開

皇居三の丸尚蔵館 24.07.09～09.01



「皇居三の丸尚蔵館」は、皇室に代々受け継がれた品々が収蔵されていて、本展では“生き物を表した工芸品、絵画、書籍”などが公開されている。

「いきもの」は、置物や実用品のモチーフとしても採用されてきたが、さまざまな技法で表された「生き物」に加え、外国との交流のなかで、その国の伝統工芸品や国を代表する作家による美術品の品々の中から、「ガラスの花瓶の魚」「ランプの海洋生物」「宝石の鳥」など、生き物の作品など数多くの貴重な工芸美術品が紹介されている。

伊藤若冲《動植綵絵 池辺群虫図》国宝 1889年・江戸時代 絹本着色

「釈迦三尊像」を荘厳するために描かれた30幅に及ぶ「花鳥図」の大作で、さまざまな植物、鳥、昆虫などの生き物をいかに瑞々しく描写するかにこだわった作品は観る者を魅了する。本作は、種々の昆虫、蛙、トカゲ、オタマジャクシ、蝶、蛇、蜘蛛などが集う光景に活気を与えているのは、踊るような蔓の動きがあり、左下ではお化けの顔になる瓢箪が描かれているが意外に静かな画面である。

「生き物をモチーフにした工芸品」

「さまざまな国から贈られた品物」



4代飯田新七《刺繍菊に鳩図額》  
(部分) 1911(明治44)年



《インクスタンド雛と蝸牛》  
20世紀初頭